

複数エージェントによる相談的意思決定場面における心理的な姿勢の時間変動の検討（研究の成果発表（シニア（静岡大学情報学部Sプロジェクト）、既発表））

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-08-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大本, 義正, 久野, 真登, 西田, 豊明 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00028351

複数エージェントによる相談的意思決定場面における心理的な姿勢の時間変動の検討

大本義正（静岡大学大学院情報学領域）,

久野真登（京都大学情報学研究科）,

西田豊明（福知山公立大学）

協調が有用な場面でも、エージェントを単にマルチモーダルインターフェースとして見なすことが多く、エージェントを「手が増えただけ」としてしか活用していないことがある。本研究では、「ワークエンゲージメント」の枠組みで人間とエージェントとの協調的なタスク遂行を捉え、タスク遂行に直接関わらない「パーソナルリソース」を高めることによって、人間の積極性に影響があるかどうかを調べた。タスク遂行を直接サポートする専門家エージェントとは別に、「パーソナルリソース」か「ジョブリソース」のどちらかを高めるような働きかけを行う仲介エージェントを実装して実験を行った。その結果、パーソナルリソースを高める仲介エージェントがいた場合に、人間はエージェントとのインタラクションそのものに積極的になることが示唆された。さらに、生理指標の時間的な変動関係を調べたところ、人間の内部状態の変化を捉える手がかりが示唆された。

<既発表情報>

Ohmoto Y., Masato K., Nishida T., “Improving Active Attitude for Interactive Decision-Making with Multiple Agents by Increasing Personal Resource,” ICAART2021

(accepted) , 2021 年 2 月に発表予定.